

りゅうぎん まかせて新聞

2006 12月
(平成18年) 第7号

発行／琉球銀行
総合企画部地域貢献室
〒900-0015那覇市久茂地1-11-1
(大代表)
TEL098 (866) 1212
ホームページ
<http://www.ryugin.co.jp/>
メールアドレス
ryugin@ryugin.co.jp

**りゅうぎんの目指す将来像
「まかせてバンク」**
「まかせてバンク」とは、文字通りお客さまのすべてを任せていただきたいとの意味であり、りゅうぎんが県民の間に深く浸透していくイメージを表しています。そのために、りゅうぎんは、お客さまのことを十分に理解し、常に今お客さまに何が必要なのかを考え、「必要な時には、いつもそばにりゅうぎんがある」というまさに「かゆいところに手が届く」金融サービスの提供を目指します。

県内初!

世界最大級のプライベートバンク ロンパー・オディエ・ダリエ・ジャパンと協業

琉球銀行は、二〇〇六年六月、プライベートバンク(PB)世界最大級金融機関の日本現地法人、ロンパー・オディエ・ダリエ・ヘンチ・ジャパンと顧客紹介や高度な金融資産運用サービスのお客さまへの提供について協業契約を締結しました。

琉球銀行が提携したロンパー・オディエ・ダリエ・ヘンチ・ジャパンは、スイスに本社を置き、二七九六年に設立されました。契約資産は約十三兆円、十五カ国に従業員約千七百人を抱える世界最大級のプライベートバンクです。琉球銀行は、今回の提携により、団塊世代や県内に移住する富裕層のお客さまの金融ニーズに対して、高度でグローバルなオーダーメイド型の資産運用サービスを紹介することが可能になりました。二〇〇六年九月には、県内のファミリービジネス対象企業の皆さまとフランスで開催されたファミリー・ビジネス・ネットワーク・サミットに参加しました。



協業契約を結んだ琉銀の大城頭取(左)とロンパー社の村上社長



ロンパー社との食事会



ロンパー本社前で丸三ランドリーの荷川取締役(左)、瑞泉酒造の佐久本専務(中央)、琉球銀行高良部長(右)



ジュネーブ近郊のワイナード

琉球銀行の地域貢献についての考え方 (基本スタンス)

琉球銀行は、地方銀行の基本的な使命は、地域の金融インフラを支える存在として、円滑な資金供給と金融サービスを提供することにあると認識し、本業である銀行業務を通じた地域貢献こそが、地方銀行本来のあり方と考えています。こうした基本理念に基づき、琉球銀行は県民からお預かりした預金の大部分を県内の中小企業・個人の皆さまに供給し、県経済・社会の発展に貢献しています。

同時に、地方銀行には、地域社会に根ざした良き企業市民として社会的責任を果たすことが求められており、琉球銀行は教育・芸術・文化・スポーツ振興支援や福祉・環境保護活動などのほか、さまざまなボランティア活動にも積極的に取り組んでいます。

琉球銀行は、こうしたバランスの取れた地域貢献活動により、地域とともに持続的な発展を目指します。

琉球銀行では、こうした情報を提供する新しい情報開示手段として、「りゅうぎん まかせて新聞」を二〇〇三年十二月より発行しており、今回の発行で七回目となりました。

二〇〇五年三月、金融庁は「地域密着型金融の機能強化の推進に関するアクションプログラム」を公表し、全国の地域金融機関は、二〇〇五、六年度の二年度間に、地域密着型金融の一層の推進に取り組みすることになりました。

二〇〇六年十二月号も、写真やイラストを増やし、インタビュ記事など生の声を多く取り上げ、分かりやすい紙面構成を心がけました。さらに、お客さまに役立つ情報を中心に、琉球銀行の活動をいろいろな角度から紹介しています。

【解説】地域密着型金融「地域密着型金融」とは、「金融機関が顧客との間で親密な関係を長く維持することにより、顧客に関する情報を蓄積し、この情報をもとに貸出等の金融サービスの提供を行うことで展開するビジネスモデル」と定義されます。その本質は、金融機関が、長期的な取引関係にもとづく質の高い対面交渉などを通じて、早い時点で取引先の経営改善に取り組みとともに、中小企業金融における貸出機能の強化により、自身の収益向上を図ることにあります。

また、金融機関と中小企業のリスクの共同管理やコストの共同負担という基本的方向性を踏まえながら、相互の信頼関係のもと、情報開示を層推し、借り手と貸し手の双方の健全性の確保を目指すことにあります。

りゅうぎんまかせて新聞
第七号 (二〇〇六年十二月号) 発行